

Requested Patent: JP62208797A
Title: SPEAKER FOR TELEVISION RECEIVER ;
Abstracted Patent: JP62208797 ;
Publication Date: 1987-09-14 ;
Inventor(s): KOGA SHIRO ;
Applicant(s): MITSUBISHI ELECTRIC CORP ;
Application Number: JP19860048597 19860307 ;
Priority Number(s): ;
IPC Classification: H04R1/02 ;
Equivalents: ;

ABSTRACT:

PURPOSE: To simplify the attachment of a cabinet and to attain the most suitable viewing of a television screen by attaching the speaker cabinet by an attaching member so as to rotate by about 90 deg. upward and freely extend in the direction of width.

CONSTITUTION: A speaker for a television receiver has the width set according to the expansion of a belows 28 correspondingly to the width of a pedestal 3a and is fixed by inserting plate shape members 24, 24a disposed on the speaker cabinets 20, 20a between the pedestal 3a and the television receiver 2 mounted on the pedestal 3a. The speaker for the television receiver is suspended in front of a front hinged door 5 of the pedestal 3a. However, since the speaker cabinets 20, 20a can rotate by about 90 deg. upward by a hinge 24, when the door 5 in front of the pedestal 3a is opened, the door 5 can be opened by rotating the speaker cabinets 20, 20a by about 90 deg. upward.

③ 日本国特許庁(JP)

④ 特許出願公開

⑤ 公開特許公報(A)

昭62-208797

⑥ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑦ 公開 昭和62年(1987)9月14日

H 04 R 1/02

1 0 2

Z-7314-5D

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑧ 発明の名称 テレビジョン用スピーカ

⑨ 特 願 昭61-48597

⑩ 出 願 昭61(1986)3月7日

⑪ 発 明 者 古 賀 士 朗

郡山市栄町2番25号 三菱電機株式会社郡山製作所内

⑫ 出 願 人 三菱電機株式会社

東京都千代田区丸の内2丁目2番3号

⑬ 代 理 人 弁理士 佐藤 正年

明 細 書

1. 発明の名称

テレビジョン用スピーカ

2. 特許請求の範囲

(1) 2つのスピーカキャビネットを相互に対向する側面を空洞にして蛇腹で結合し、かつ上記スピーカキャビネットの天面後端部に取付け部材を設けてなるテレビジョン用スピーカ。

(2) 上記スピーカキャビネットが水平面より上方へ約90°回転可能に上記取付け部に取付けられていることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載のテレビジョン用スピーカ。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この発明は、テレビジョン用スピーカに関する。

〔従来の技術〕

第7図、第8図はそれぞれ従来のテレビジョン用スピーカの斜視図であり、図において、(1)は縦型のスピーカ、(1a)は横型のスピーカである。

第9図、第10図はそれぞれ縦型のスピーカ(1)を

テレビジョン(2)の両脇に配置した場合の正面図である。図において、(3)はスピーカ(1)とテレビジョン(2)との両者が置ける台、(3a)はテレビジョン(2)のみを置くようにした台、(4)はスピーカスタンド、(5)は台(3)、(3a)の正面に取付けられ手前に開閉可能な戸である。第11図は台(3a)上に横型のスピーカ(1a)を配置し、その上にテレビジョン(2)を置いたものの正面図であり、第12図はその側面図である。

一般にテレビジョン用スピーカは、テレビジョン(2)より後端に置かれて設置すると音の到来方向と映像の到来方向とが著しく食い違つて不自然となるので、従来は上記のようにテレビジョン用スピーカ(1)、(1a)をテレビジョン(2)に近接した位置に設置するようにしている。

〔発明が解決しようとする問題点〕

従来のテレビジョン用スピーカの設置方法において、第9図に示すような台(3)上にスピーカ(1)とテレビジョン(2)との両者を配置する場合は、幅の広い台(3)が必要となり、又寸法の大きなテレビジ

特開昭62-208797 (2)

ョン(2)を搬置すると、両脇の空間が小さくなつてスピーカ(1)を置くことができなくなる。しかも寸法の小さなテレビジョン(2)では両脇に必要以上の空間ができ、視覚的に不自然となる。又第10図に示すスピーカスタンド(4)を使用するものでは、スタンド(4)が別に必要となる。さらに、第11図に示す台(3a)上に搬置したスピーカ(1a)上にテレビジョン(2)を設置する場合は、テレビジョン(2)が大きいと不安定になり、テレビジョン(2)の位置が高くなつて視線が必要以上に上に向くため視聴者は疲れる等種々の問題があつた。

この発明は上記のような問題点を解決するためになされたもので、正面に開閉する戸がある台にテレビジョンを設置しても、スピーカスタンド等を使用せずに容易にテレビジョンの前面に固定し、かつ台の戸の開閉を可能にすると共に、テレビジョンの幅が変化しても、その変化に対応して幅を可変することが可能なテレビジョン用スピーカを得ることを目的とする。

〔問題点を解決するための手段〕

キャビネット(20a)と対向する側面(22a)には側板を設けず空洞となつており、スピーカキャビネット(20a)のスピーカキャビネット(20a)と対向する側面も同様となつている。図、(22a)はそれぞれスピーカキャビネット(20a)の天面で、それら天面(22a)の後端部には、突出した板状の部材(24a)が乗番(24)により水平面より上方へ約90°回転可能に設けられている。そして、スピーカキャビネット(20a)は、相互に空洞の側面(22a)を対向させ、蛇腹(24)により結合されている。

第3図は、この発明に係るテレビジョン用スピーカを設置した状態を示す正面図であり、テレビジョン用スピーカは、台(3a)の幅に対応して蛇腹(24)の伸縮によりその幅を定め、スピーカキャビネット(20a)に設けた板状の部材(24a)を台(3a)と、台(3a)上に搬置したテレビジョン(2)との間に挿入して固定されている。

第4図は、その側面図であり、テレビジョン用スピーカは台(3a)の正面の開き戸(5)の前に吊下つた状態になつている。しかしスピーカキャビ

ネット(20a)は、2つの対向させたスピーカキャビネットの相互の対向する側面を空洞にして、それらスピーカキャビネットを蛇腹で結合し、かつそれぞれのスピーカキャビネットの天面後端部に治具により取付け部材を設けたものである。

〔作用〕

この発明においては、スピーカキャビネットの天面後端に取付け部材が設けられているので、その取付け部材をテレビジョンと台の間に挿入すれば、容易にスピーカをテレビジョン前面に固定することができる。又対向する2つのスピーカキャビネットは蛇腹で結合されているので、テレビジョン及び台の幅に対応して自在にその幅を調整することができる。

〔実施例〕

第1図はこの発明の一実施例の斜視図、第2図はその部分斜視図である。両図において、図、(20a)はスピーカキャビネットで同一形状に構成され、スピーカキャビネット(20)の他方のスピーカ

キャビネット(20a)は乗番(24)により上方へ約90°回転可能であるので、台(3a)の正面の戸(5)を開く場合は、第5図に示すように、スピーカキャビネット(20a)を上方へ約90°回転すれば戸(5)を開くことができる。

第6図は、この発明の別の実施例を示す斜視図である。全体の構成としては、第1図に示すものと同様であるが、スピーカキャビネット(20a)の天面(22a)、(22c)に取付け部材(24a)、(24c)を設けず、天面(22b)、(22e)を後に張り出して、その後端部分に取付け部材(24a)、(24c)と同様の機能をもたせたものである。

この実施例のスピーカをテレビジョン(2)の前面に固定するには、第3図及び第4図に示したのと同様の方法による。なお、台(3a)に戸(5)がある場合は、戸の開閉ができなくなるが、戸(5)の無い台(3a)を多く存在し、そのような台(3a)には有効である。又乗番(24)による取付け部材(24a)を取付ける作業が省略しうるので安価に製造することができる。

特開昭 62-208797 (3)

〔発明の効果〕

以上説明したように、この発明はスピーカキャビネットを取付け部材により取付け、かつ上万へ約90°回転可能であると共に幅を自在に伸縮しうるようにしたので、正面の幅がどのような寸法のテレビジョンにも、その幅に合わせてテレビジョンの前面に簡単に取付けることができ、台の正面の戸の開閉を妨害することなく音と映像の到来方向が自然で最適な視聴が可能になる効果がある。

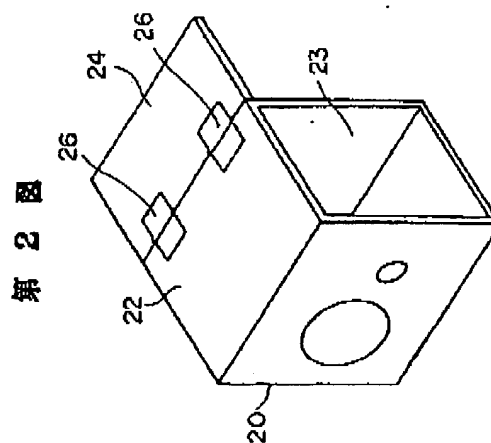
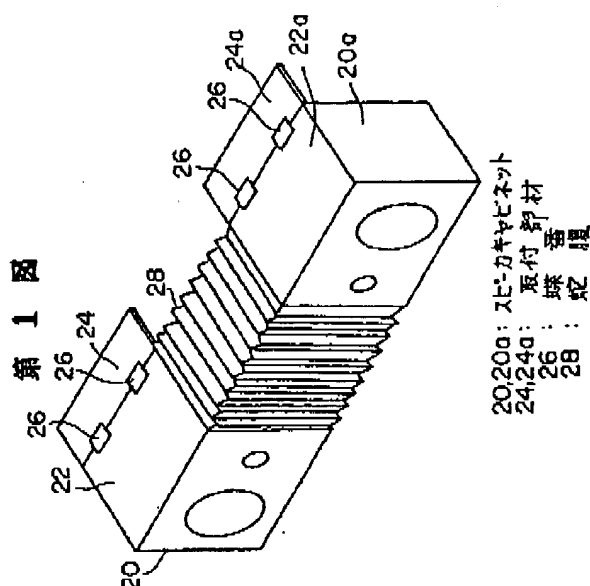
4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明の一実施例の斜視図、第2図はその部分斜視図、第3図はこの発明の一実施例の正面図、第4図、第5図はその側面図、第6図はこの発明の他の実施例の斜視図、第7図、第8図は従来のテレビジョン用スピーカの斜視図、第9図～第11図は従来のテレビジョン用スピーカの正面図、第12図は第11図の側面図である。

図において、図、(20a)はスピーカキャビネット、図、(22a)は天面、図、(24a)は取付け部材、図は巻帯、図は蛇腹である。

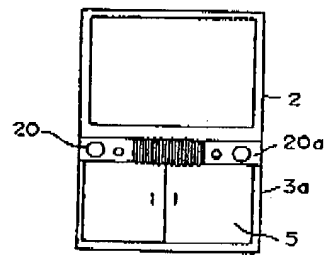
なお各図中、同一符号は同一又は相当部分を示す。

代理人 弁理士 佐 藤 正 年

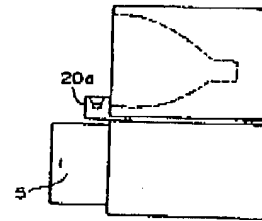


特開略62-208797 (4)

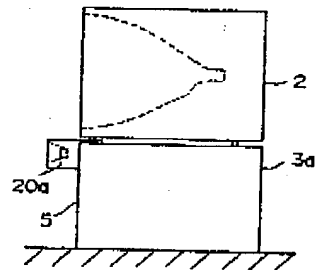
第 3 圖



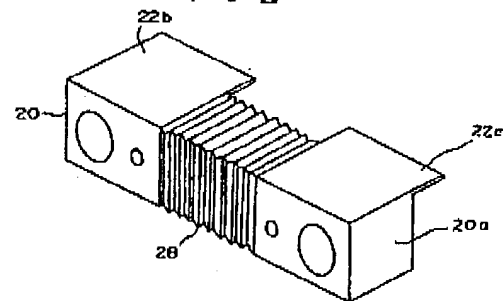
第 5 圖



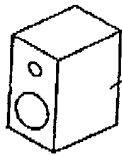
第 4 圖



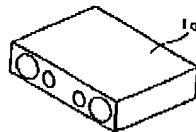
第 6 圖



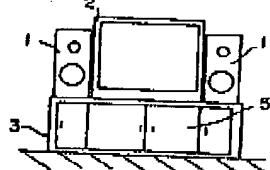
第 7 圖



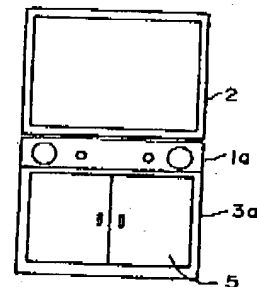
第 8 圖



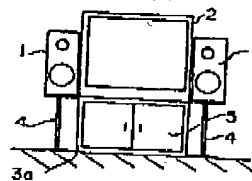
第 9 圖



第 11 圖



第 10 圖



第 12 圖

